論文審査の結果の要旨

氏名：北　澤　太　野
博士の専攻分野の名称：博士（教育学）
論文題名：体育授業研究のパラダイム転換をめぐる議論と展望
審査委員：（主 査）　　教授　　鈴　木　　理
　　（副 査）　　教授　　羽　田　積　男
　　上越教育大学教授　　土　田　了　輔

本論文は、学校教育における体育の授業研究に関する方法論的な研究である。
著者は、わが国の体育科教育学を基礎付けてきた体育授業研究の理論的基盤に検討を加え、授業研究の戦略的拠点を「理想的な体育授業の追究」から「現前の体育授業の深い理解」へと移行することの必要性を訴えるとともに、その理論化を試みている。

先ず先行研究を吟味し、授業過程の事実と学習成果との因果的関連性から導かれた「効果的な教授（effective teaching）」の在り方が、個別・具体的な教育実践のリアリティと大きく乖離していることを鋭敏に問題化している。なぜなら、日常の授業実践は、きわめて文脈依存性の強い世界であり、その意味では体育を「それ以上のもの」にしている「関係性」を排除してしまうようなコンテクスト・フリーな科学的知識や教授技術だけではおよそ対応することができないと考えられるからであり、さらに言えば、そうした知識・技術を「ありふれた日常の授業実践」に埋め戻すにあたって、教師には高度な自己言及能力、すなわち「自分の言動には限界（または偽り）が含まれていること」への認識が求められるからである。

そこで著者は、これまで捨象されてきた体育授業の社会的な文脈を取り戻し、まずは「ありのまま」を「まるごと」受け取ろうとする態度で体育授業研究に臨むべく、新たな方法論を提示した。すなわち、体育授業研究それ自体を実践的・学問的に追究するために、研究のフィールドである体育授業の現場に入り込み、教師や学習者に寄り添って授業中のさまざまな出来事に立ち会いながらデータを収集し、解釈を加えていったのである。

フィールド調査では、学習者の反応や教材価値の理解に苦闘しながらも授業に真摯に臨み、彼らとの対話を通じて授業中に生起した多くの気づきを掬い上げ、共有し、活用していくことに手応えを感じる教師の姿が描写されている。また、学習者の先入見に崩しを掛けようとする教師の働きかけと、それを機に気づきを得た学習者の応答、そして、それを受けて柔軟に変化する教育的介入等々、相互に影響を与え合いながら「いま」と「ここ」が形づくられるという、授業の「内側」の世界が開示された。

以上のように、新たな観点からの体育授業研究の方法論について理論的にも実践的にも精緻に探究した本研究の成果は、教師の専門性（expertise）の向上に資する研究として高く評価することができる。

よって本論文は、博士（教育学）の学位を授与されるに値するものと認められる。

以　　上

平成２６年１月３０日